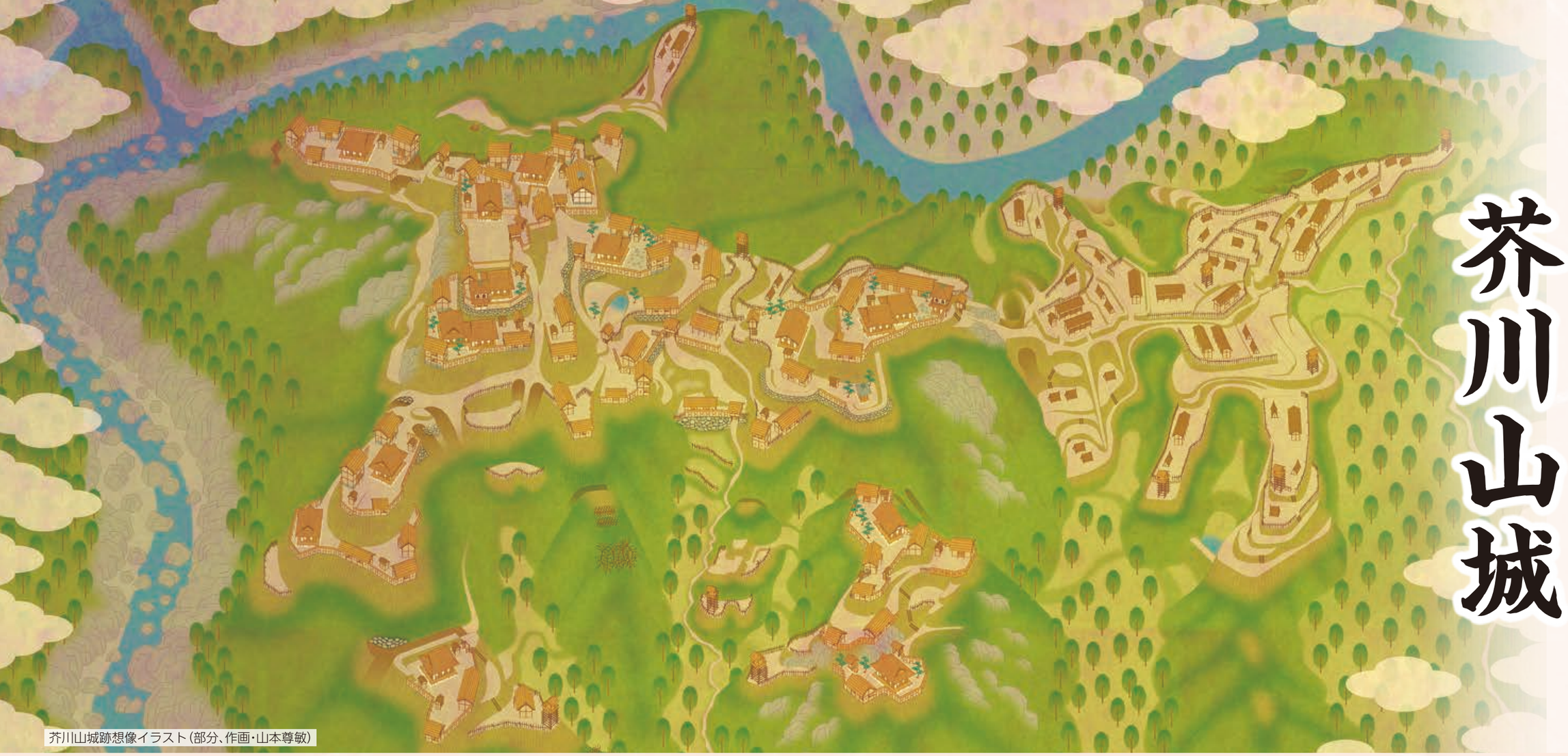
クローズアップ①

畿内統括の要となった城

芥川山城



芥川山城跡想像イラスト（部分、作画・山本尊敏）

戦国時代の真っただ中、摂津峡のすぐ東側に、天下を治めた三好長慶が居城とし、織田信長も入城した、「芥川山城」がありました。

摂津峡を見下ろすように立つ三好山に位置した芥川山城は、府内最大級の山城で、三好長慶の時代には畿内を統括する要の地としての役割がありました。

市は、この歴史的価値のある城跡を保存し、継承・活用していくため、国史跡への指定に向けた調査を実施しています。

芥川山城はどんな城だったのか。城の造りや関わった歴史人物などを通して、その全容に迫ります。

問合先…文化財課（☎674・7652）

公家をもてなすことができた豪華な造り

芥川山城は、北摂山地と大阪平野が接する地点にある三好山に位置し（左図）、永正13（1516）年までに、摂津国を束ねる守護であった細川高国が築きました。細川氏は平地の茨木（茨木市）に拠点を構えていましたが、戦に備えて敵が攻めにくい山の上に城を築いたのです。築城には昼夜問わず、300～500人が働いたと伝えられます。

三好長慶の時代の芥川山城には、立派な御殿があったとされ、連歌師や公家らが登城した記録が残っています。芥川山城のように、周囲を川に囲まれた戦向きの山城に本格的な御殿が建てられることは珍しく、城主の立場と権力を示すものでした。

天下を治めた三好長慶の居城

細川高国の次の城主は、高国との戦いを制した細川晴元でした。さらに晴元の家臣であった三好長慶が、晴元を追放し、天文22（1553）年から居城としました。

当時の長慶は、実力で天下（当時の畿内）を支配し始めていました。芥川山城は天下人が座する城となり、城内には長慶に仕える松永久秀など多くの家臣が居住していました。

永禄3（1560）年、長慶が飯盛城（四條畷市・大東市）に移ってからは、家督を継いだ嫡男・義興が城主になりました。

信長が天下をとる先駆けとして攻める

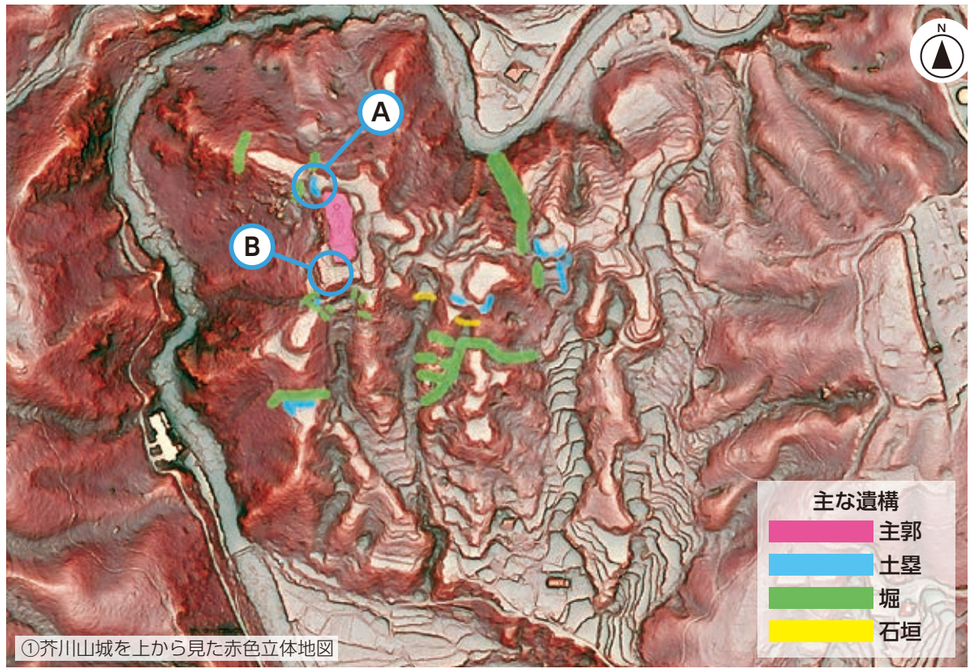
長慶の死から4年経った永禄11（1568）年、織田信長が次の将軍となる足利義昭とともに摂津（現在の大阪府北中部と兵庫県南東部）に侵攻。天下を支配していた三好氏の時代を一刻も早く終わらせるため、芥川山城を真っ先に攻め、その日のうちに落城させました。

信長は芥川山城に入城後、この地で天皇の使いを迎えて畿内の要人との対面や、武将の配置の発表を行ったと記録されています。

その後、義昭の家臣であった和田惟政が城主となりますが、翌永禄12（1569）年、惟政は高槻城に移り、芥川山城を家臣の高山飛騨守に預けます。しかし、惟政が討ち取られ、高槻城を息子の和田惟長が継いだ後、織田信長の台頭を受けて高山飛騨守・右近の父子は元亀4（1573）年、惟長を追放し、自らが高槻城主となりました。

このころに芥川山城はその役割を終え、約60年に渡る歴史に幕を閉じました。

芥川山城の造り ここがすごい



①芥川山城を上から見た赤色立体地図

芥川山城の山裾は、三方に芥川が流れ深い渓谷になっていて、敵が攻めにくい天然の城塞でした。

摂津最大の規模を誇った芥川山城の造りや発掘調査の様子を市学芸員が解説します。

敵を通さないために作られた堀

城とは敵の攻撃を防ぐための施設です。そのため、城を築くときに最優先に考えるべきことは、いかに敵が勝手に入ってこないようにするかです。その対策として、一番大切なものが「堀」です。

②堀

山城にある堀は水の張られた水堀と違い溺れることはありませんが、深い堀に落ちればけがをし、這い上がることも難しくなります。また、落ちて身動きができないところを攻撃されたらひとたまりもありません。

芥川山城にも、敵の侵入を防ぐよう多くの堀が設けられています(②)。

芥川山城にある堀の中には薬研堀(やげんぼり)というものがあります。

薬研堀は断面図がV字形になっているため、底が平なものと違い、掘り下げる土の量が少なく済み、作るときも効率的に作れました。

また、堀底が狭くなるため、中に落ちれば身動きが取りにくい造りになっています(③)。

③薬研堀

＼解説してくれるのはこの人！／

市学芸員・早川圭さん(入庁14年目)

11月に実施した芥川山城の発掘調査の担当者。これまで安満遺跡や高槻城の発掘調査にも携わってきた。

敵を防ぎ反撃するための土塁

敵を防ぐために作った土手を土塁と言います。

戦国時代は土塁の形を工夫し、城内への出入りをしにくくして敵が入りにくいようにしていました。芥川山城では、上から見ると横にまっすぐではなく、囲うように曲がった土塁を見ることができます(①のA)。

また土塁は、弓矢や銃などで上から攻撃をするのにも使用していましたが、弾をこめるのに時間がかかった戦国時代の火縄銃を使うときの弾除けとして使われていたとも言われ、用途はさまざまでした。

④土塁

⑤

土塁は石垣と比べると弱そうに見えますが、ていねいに突き固めることで矢や弾を防ぐこともできました。

よじ登ろうにも手でつかめるものがないため、簡単に登ることはできません。また、攻撃を防ぐだけでなく、敵より高いところから反撃ができるというメリットもありました(④⑤)。

天然の要害に囲まれた山城には珍しい本格的な御殿

平成5年度、市が芥川山城跡の曲輪(くるわ、本丸)で発掘調査を実施したところ、礎石を用いた東西6・6㍍×南北3・9㍍以上の建物を検出しました(⑥)。一部の発掘でしたが、床を張った4つ以上の部屋と縁側のある、本格的な御殿の跡が確認されていて、豪華な居住空間があったことが分かっています(⑦)。

戦国時代の山城は、あくまで敵からの攻撃を防ぐための施設であったため、建物は掘立柱など簡単な造りのものがほとんどでした。芥川山城は、周囲を芥川と断崖に囲まれ、山そのものが難攻不落の砦となっています。その立地にも関わらず、公家や畿内の実力者を迎えるだけの御殿と、多くの家臣が居住できるだけの建築物があり、戦国時代では数少ない造りの城でした。

⑥山頂(主郭)で発掘された建物の跡

⑦御殿(イメージ)

⑧11月発掘調査の様子

令和2年11月、新たに山頂に近い城の中心部で発掘調査を行いました(①のB)。今回の調査でも建物の基礎が確認されています(⑧)。また、山城であったことから眺望もよく、矢や銃を撃つための「櫓(やぐら)」のような建物があった可能性もあります。

詳しい構造や用途については今後検討し、芥川山城跡の実態解明を進めていきます。

※芥川山城跡は私有地で、トイレがありません。また、足場が悪く危険な場所もあります

芥川山城と武将たち

芥川山城には、三好長慶、松永久秀、織田信長、高山右近など、さまざまな武将が入城しています。その中でも、芥川山城を畿内の政治拠点として確立させた天下人・三好長慶とその家臣・松永久秀に注目。長年2人の研究を行っている天野忠幸さんに話を聞き、その素顔に迫ります。

13の国に影響力を持つ天下人

三好長慶（みよしながよし）

＼解説してくれるのはこの人！／

天理大学准教授・天野忠幸さん

長慶と久秀の研究を始めて22年。地元の兵庫津（現在の神戸港の前身となった港）に縁のある人物を研究する中で、長慶や久秀の古文書に出会ったことがきっかけに。三好・松永研究の第一人者。

三好長慶像模本（京都大学総合博物館蔵）

物事を確実に実行していく策略家

長慶は、細川晴元に仕えていましたが、父・三好元長を自害に追い込んだことから、少なからず恨んでいました。

しかし、晴元を討とうにも、私利私欲で戦を持ちかけたところで誰も戦いに賛同してはくれません。

そこで長慶は、畿内の武将たちに晴元がいかに危険な存在で、周りに不利益な状況を作り出すのかを訴え、晴元を討つのはやむなしと支持を広げていきます。また、細川晴元を討って「細川家を倒して権力を握りたいだけなのでは」と疑われないよう、細川家の跡継ぎを準備していました。

さらに長慶は、幾度か晴元に攻められますが、殺すことはせず、あえて和睦を結んでいます。晴元の味方をしていた将軍・足利義輝という存在の重要性を理解していたからです。また、長慶は敵であってもお互いができるだけ傷つかず、折り合える場所を探すことがうまい人物でした。

これらのことから分かるように、長慶は物事を熟考し、確実に実行する策略家であったことが想像できます。

争いを統治し自身の地位を確立

天文18（1549）年、長慶は、晴元と義輝を京都から追い出し、天文22年から約7年間、芥川山城を居城としました。

その間、京都に将軍が不在であったことから、実質京都や畿内を支配していた長慶のもとに、摂津や京都周辺の村落から土地の権利をめぐる紛争や訴訟が持ち込まれました。

長慶はその問題をただ力任せに解決することはせず、家臣を派遣して、現地の争いに中立な百姓などに話を聞きに行かせました。長慶は、当事者の意見をないがしろにせず、問題を解決していくことで自身の地位を確立していき、芥川山城は畿内の政府としての役割を担っていきました。

このころ全盛期だった長慶は、松永久秀などの働きもあり、畿内を中心に13もの国に影響力を持つ天下人となっていきました。

実は行政面に優れた長慶の忠臣

松永久秀（まつながひさひで）

松永久秀像（しろあと歴史館蔵）

高槻市出身の武将 長慶の右腕

久秀は摂津国五百住（高槻市）の出身とする説が最有力とされています。

長慶が出身である阿波（徳島県）から摂津に拠点を移し、新たに自分の家臣を探していた際に、久秀の力を見込んで家臣としました。

久秀は、大和国（奈良県）を攻める際に出陣していて、武功もあげたことで、大和国の支配を任されています。また、長慶の命令を確実に執行していく行政面での力も優秀だったと言われていて、長慶を支える右腕のような存在でした。

三好家への忠誠を誓い仕え続ける

松永久秀、というと、悪役や下剋上、というイメージを持つ人が多いかもしれません。

その理由は、将軍・足利義輝の殺害や主君・三好長慶の嫡男・義興を死に陥れたなどのエピソードが伝わっているからだと考えられます。

しかし、最近の研究から、これらのエピソードは事実とは異なることが分かってきています。

足利義輝の殺害に関しては、長慶の養子となった義継と久秀の息子・久通が行ったものであり、久秀は現場にはいませんでした。それどころか、次の将軍となる足利義昭をかくまったことで、三好三人衆と対立することにもなりました。

また、自分の力が長慶あってのものだとよく理解していた久秀は、長慶に謀反を起こす動機などは皆無でした。長慶の嫡男・義興についても、久秀はその病状をとても嘆いて、取り乱しており、より三好家への忠誠を誓う書状が残っているだけで、久秀が殺したという証拠は残っていません。

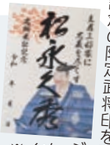
さらに久秀は、妻である広橋保子が亡くなった際、奈良に住む全ての人に喪に服すよう命じる「鳴物停止令」を出していて、愛妻家であったということも考えられます。

これらの史実から、悪役というイメージは、後世に形作られたものであることが明らかになってきています。

高槻歴史シンポジウム　**松永久秀に迫る　検証・高槻出身説**

松永久秀をめぐる研究が大きく進展し、そのイメージは戦国の極悪人から主君・三好長慶に仕える忠義の家臣へと変わってきました。久秀の実像と高槻出身説に迫ります。参加者には、限定の松永久秀の武将印を進呈します。

日時…3月13日㈯午後1時～4時30分
会場…高槻現代劇場中ホール
講師…天理大学准教授・天野忠幸さんほか
定員…280人（多数抽選）
費用…1,000円
申込方法…2月16日㈫（消印有効）までに直接または、往復はがきかファクスに、講座名、住所、氏名、電話番号を書いて、〒569・0075城内町1番7号しろあと歴史館（☎673・3987、FAX673・3984）へ



参加者には記念の限定武将印を配布
※イメージ